

評価コメント

- ・計画は順調に進んでおり、新たな課題も上がってきているので、次年度も着実に続けて行っていただきたい。
- ・小学校のアドヒアランス向上の効果的な吸入指導は多くの問題をまだ有しており、継続が必要な研究である。中学校の禁煙教育は両親の指導もないとなかなか難しい。高校の行事と喘息発作の調査は体育や学校行事と発作の関連もあり重要である。
- ・中学校、高等学校に特化したアプローチは個別化、集団指導の適用を具体的に決定する上で有用と思われる。
- ・小学生から高校生まで一定の年齢層と一定の地域を対象にした喘息改善のための調査研究は意義のあることである。どのような介入方法が最も効果があるか十分検証する必要がある。
- ・各学年にわたり健康調査や健康教育介入を行うのは意義がある。授業、行事などのスケジュールが過密な学校において、実践する苦勞を評価するが、今後、この事業を全国各地で展開することを想定して、どのように教育機関と連携を深めていくのか、手順、手続きなどのノウハウも含め研究を進めて欲しい。
- ・学校の協力が絶対的に必要であるが、それを得るためのコツを明らかにして欲しい。
- ・第8期からの継続研究であり、近年困難になってきた教育現場での研究は貴重である。この関係は継続して保持してほしい。指導によるJPACまたはACTの変化はいかがであろうか？
- ・中学生を含め普遍性のある禁煙指導の実施の方法も検討してもらいたい。
- ・小学生、中学生のうち医療機関を定期的に受診していない喘息患者(多分軽症で、従来の研究対象から漏れていたかもしれない)について別個の項目について検討しているが、検討項目が共通の部分も持っていてほしい。